飛耳長目 〈第12回〉 開催趣旨

日　時	令和5年2月7日（火） 午後6時～
場　所	牧公民館
テーマ	猿被害対策について
参加者	牧楽会 15 人

猿害対策について

参加者　牧楽会は牧を良くするために結成した。一番の問題は猿害。数十頭の群れを成して歩いている。抜本的な対策、安曇野モデルをつくってほしい。

課長　始めに、現在市で行っている対策を説明する。猟友会に依頼して捕獲している。大型捕獲檻を設置していて、令和2年は 88 頭、令和3年度は 60 頭、令和 4 年度は 110 頭捕獲している。今年度捕獲したサルのうち 40％の 46 頭を牧で捕獲している。電柵を張っているが、サルも賢くなっていて電気が弱いところから入ってきたりするのでメーカーと相談して対策している。個人への補助については、エアガンや電気柵の補助を行っている。またサル用の首輪をつけてGPSで追えるようにしていて、2時間くらいのスパンでどこにいるかわかる。今年は8頭に付けることを目標にしていて、メス猿に付けて行動パターンを把握しようとしている。追い払いについて、市職員も取り組むが、市民の皆さんにも追い払いに協力いただきたい。来年度は市職員が指示を出しながら、住民の皆さんが追い払いを行う「追い払い隊」を実施する予定。また、電柵の補助金については「補助率は対象経費の 1/2 で上限 10 万円」という制限があるが、来年度は上限を撤廃する予定。有害鳥獣対策において大きな役割を果たしている猟友会も、高齢化し担い手不足となっていることから、若い人に入ってもらうための育成補助予算を拡大する予定。ただ、いずれにしろ地域で協力していただかないと対策はできない。他の地域では、連絡網を作って連絡取り合って追い払い等の対策をしているところもあるので、こういったことに皆さんも取り組んでほしい。

参加者　山麓線の上の方では猿のせいで農業ができず、耕作放棄地が増え続けている。物を作ってもサルが全部食べてしまう。電柵をやっても効果があまりない。

参加者　2年前に猿の捕獲檻を設置していただいたが、効果があると聞いている。一番被害が大きいのが山崎地区で、牧公民館の上の地区は特に被害が大きい。檻の効果を検証し、効果があるのであれば、より被害の大きいところに移動させたらどうか。

参加者　消防団詰所の周りにたくさんサルがいるが、近くにある廃屋や藪が住処になっていると推察される。こういうところに檻を移してもらえたらと思う。

参加者　20 年前から、牧地区に対し捕獲や檻の設置を考えてほしいと依頼してきたが、対策を

取ってこなかった。今ではもう手遅れで、どうにもならないほど数が増えてしまった。こうなると極端に減るものではない。地域の皆さん全員で追い払いをしてもらうというのが一番効果的。餌があればいくらでも来てきりがないので、取らない柿をそのままにしない、畑には何も置かない、空き家を放置しないなど、そういった住民による取り組みが必要。餌を置かないということが一番の対策ではないか。檻でははっきり言って捕獲しきれない。そして猿を殺すにはやはり抵抗がある。猟友会員も有害鳥獣とるために免許をとったわけではない。猿が山ではなく里で生まれている。空き別荘がたくさんあってその軒下に住み着いている。山には山の、里には里のサルがいて、里のサルは山にいけない。はっきり言ってどうしていいかわからないのが正直なところ。電気柵も設置を検討したが、反対が多くて設置できなかった。別荘が多いため、東山のように柵をつけるわけにいかない。猟友会としては捕ってはいるが、きりがないのが現状。

参加者　自宅の周りでは毎日 30～40 匹のサルが出て本当に困っている。空き家に住んでいると考えられ、年寄りや子どもが普段歩くのも危ない状況になっている。朝見かけても通勤途中で追い払えないし、若い人は平日日中いないため追い払いができない。モンキードックを呼んでも来るまでに時間がかかるので役に立っていない。追い払おうにも人が集まってくると猿は逃げてしまう。一人か二人で追い払っても効果がなく、そのうち戻ってくる。

参加者　以前、西山一帯に電気柵を付けたらどうかと検討したが、設置する場所が見つからないということで断念した。別荘やゴルフ場の上の方に付けるしかないが、山奥過ぎると手入れをしに行くのも大変で維持が難しいということで、苦渋の決断でつけなかった。その結果穂高だけ電気柵がないのでサルが来てしまう。また、捕獲檻を設置して殺処分したらいいというが、大きな檻だと餌の用意や出し入れ、周辺の草刈など管理が大変。地区の話し合いでは、維持管理が難しい大きな檻ではなく、小さな檻を個々で畑に設置し、個人で維持管理するという形がいいのではという話になった。小さな檻を設置するための支援をしてほしい。

参加者　猿の殺処分は県の許可がいるが、殺処分の許可数を最大に設定してもらいたい。追い払いもいいが、それだけでは足りないので、殺処分で数を減らしていく必要がある。別の地域ではボランティアが檻を設置して管理しているところがあり、効果が出ていると聞いた。

課長　現在の申請数は 200 頭だが、実際はそこまで到達していない。県には追加の依頼ができるため上限については問題ないが、上限に達するほどの数を捕獲できるかというと別の問題。小さい檻の貸し出しはできるが、捕獲の許可を取り、処分の手順を学んでもらう必要がある。集落の皆さんが猟友会と協力して、檻の維持管理等を行う「集落捕獲隊」という制度もある。

参加者　野菜を育てているが、効果的な電気柵の張り方を習い、畑の周りに電気柵を設置しているため、猿の被害にあっていない。効果的な電気柵の張り方を知らない人も多いので、

張り方を教えてくれる人を市で雇って講習の機会を設けてほしい。そうすれば少なくとも作物だけは守れる。近所には家の周りにも電気柵を張っているところもあり、その家はサルが近づかない。自分はサルを見ると追い払っているので、サルも自分を見ると逃げていく。道具を持って振りかざして、一度徹底的にやると逃げていく。そういうノウハウを教えてくれる人を設置したらいいのではないか。
西山一帯に電気柵を囲うのは難しい。穂高町の時代に電気柵で囲ったが、1年位しか効果がなかった。維持管理が大変で、使えなくなった電気柵は撤去するのが大変。電気柵を設置するならば撤去するときのことまで長期的に考えて効果的な対策をする必要がある。また、猿がものすごい勢いで増えているので、GPSで場所を把握するだけでなく、数を把握して国や県に大変な状況を訴えていく必要がある。

課長　有害鳥獣対策を専門とするコンサルタントの方が、電柵は張り方が肝心ということも言っていたので、正しい張り方を学ぶ機会をつくっていきたい。メス猿に GPS を付けると群れの規模や行動範囲がわかるので、専門的な知識を生かしサルの実態を把握していく。GPS での把握はすでに大町市でもやっているので、行政同士で情報交換をしながら効果的なデータ把握や対策に努めていきたい。それと同時に、やはり少しずつでも地域の人に手を出してもらうことが重要で、行政や猟友会だけでは対策はできない。

参加者　最近特に牧公民館の上の地区で被害が多いので、この地域のサルにGPSをつけ、群れの行動を把握してほしい。

参加者　耕作放棄地や空き家が増えてきていることが、サル被害拡大の大きな原因になっている。牧地区は農業振興地ということで家が建たないのに放棄地が増えてしまうので、ひどい状況。

参加者　以前参加したサーキットデザインでの講習会で聞いた話によると、サルの群れが牧地区から動かず山に帰っていかないそう。昔はサルはいなかったのに、現在牧にいるサルはここが家になっている。追い払うといっても山に住んでるわけではなく、里に住み着いている。市でお金を出して対策を講じてほしい。

参加者　サル捕獲をしたときの報酬をもっと上げたらいいのでは。報酬が一番高いのは南信で、3万円でるところもある。安くて1万 5,000 円。シカは3万 5,000 円。

参加者　現在は個人で餌を集めて檻に入れて捕獲しているが、エサが不足している状況。夏や秋ではなく、他に餌がない冬の時期にこそ檻に餌を設置することでよく捕獲できると思うので、餌を用意してほしい。他の地域では住民が罠の免許を取ってだいぶ数を減らしているところもある。

参加者　電柵は効果があり、大町や松本は効果的に予防ができていると聞くが、穂高には電柵がないため、猿からすると居心地がいい地域になってしまっているのではないか。他の地域からこの地域に来ているのかということも調べてほしい。自分自身は仕事があり、追

い払いをできるのは週末だけなので、市で予算を付けて実施してほしい。

参加者　サルを撃つための銃は 50 万～100 万円ほどするし、玉も何万円もするので、かなり費用が掛かり、簡単に手を出せるものではない。サルを殺してくれと言ってもそう簡単にはいかない。猟友会にも若い人たちが増えているが、昼間は動くことができないので、リタイアした方にも猟友会に参加してほしい。自分自身はサルのための銃を扱い始めたのはここ 5 年くらい。散弾銃などよりも高価で他の人に簡単には勧められない。

参加者　要するに猿の数を減らしたい。区としても一緒に取り組んでいく。

市長　新年度は猿対策関連予算を約1千万円増やす予定で、力を入れて取り組みたいと考えている。